



2018年11月7日

各位

会社名 味の素株式会社  
 代表者名 取締役社長 西井 孝明  
 (コード番号 2802 東証第一部)  
 問合せ先 執行役員財務・経理部長 中野 哲也  
 (TEL. 03-5250-8161)

2019年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、2018年5月10日に公表した2019年3月期(2018年4月1日～2019年3月31日)の通期連結業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせします。

記

1. 通期連結業績予想数値の修正(2018年4月1日～2019年3月31日)

単位：百万円

	売上高	事業利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益(円)
期初発表予想(A)	1,184,000	103,000	61,000	110.09
今回発表予想(B)	1,155,200	95,700	55,000	99.26
増減額(B-A)	△28,800	△7,300	△6,000	-
増減率(%)	△2.4%	△7.1%	△9.8%	-
(ご参考) 前期実績(2018年3月期)	1,114,784	95,672	60,124	105.76

- (注) 1. 当社グループは、IFRSの適用にあたり、投資家、取締役会及び経営会議が各事業の恒常的な業績や将来の見通しを把握すること、取締役会及び経営会議が継続的に事業ポートフォリオを評価することを目的として、「事業利益」という段階利益を導入しております。当該「事業利益」は、「売上高」から「売上原価」、「販売費」、「研究開発費」及び「一般管理費」を控除し、「持分法による損益」を加えたものであり、「その他の営業収益」及び「その他の営業費用」を含まない段階利益です。
- (注) 2. 当連結会計年度より、物流事業を非継続事業に分類しております。これにより非継続事業からの利益は、連結損益計算書上、継続事業と区分して表示しております。これに伴い、売上高、事業

利益は、継続事業の金額を表示しております。なお、対応する2018年3月期についても同様に組み替えて表示しております。

## 2. 修正の理由

2018年5月10日公表の業績予想に対して、売上高、事業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益を修正しました。

日本食品セグメントにおいては、家庭用冷凍食品及び家庭用コーヒーの競争激化等により、冷凍食品（日本）及びコーヒー類の売上げが期首予想を下回る結果、同セグメントの売上高及び事業利益は期首予想を下回る見通しです。

海外食品セグメントにおいては、売上げは換算為替のマイナス影響はあるものの順調に推移しておりますが、主に冷凍食品（海外）での米国の工場統廃合に伴うコストの増加や物流費の高騰等の影響により、同セグメントの事業利益は期首予想を下回る見通しです。

一方で、ライフサポートセグメントにおいては、電子材料が好調に推移しており、ヘルスケアセグメントも予定通りの見通しですが、日本食品セグメント及び海外食品セグメントの落ち込みをカバー出来ず、全体としては、売上高、事業利益ともに期首予想を下回る見通しです。

これらの結果、売上高、各段階利益ともに期首予想を下回る見通しとなりました。

業績予想の前提となる為替レートについては、1ドル＝111.00円で設定しております。

(注) 上記業績予想は、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しています。実際の業績は、今後様々な要因やリスクによって上記予想とは異なる結果となる可能性があります。

以 上